ライトタッチ ズーム 140ED QD

使 用 説 明 書

Lite•Touch Zoom 140 ED QD

J

このたびは、ニコン Lite Touch Zoom（ライトタッチ ズーム）140ED QDをお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用のまえにこの「使用説明書」をお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。

このカメラの主な特長

- ■38～140mmの約3.7倍ズームを内蔵した小型軽量の35mmコンパクトカメラ。(☞P.25)
- ■ニコン一眼レフカメラ用の交換レンズにも使われている色収差の少ないEDレンズと、コントラスト・解像力に優れた性能を発揮する非球面レンズを採用。
- ■暗い場所でも、逆光時でも、自動的にフラッシュを発光。(☞P.36)
- ■息を吹きかけても曇りにくいアンティフォグファインダーを採用。(☞P.21)

本文中に使われているマークについて

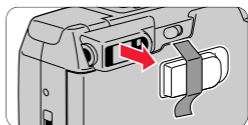
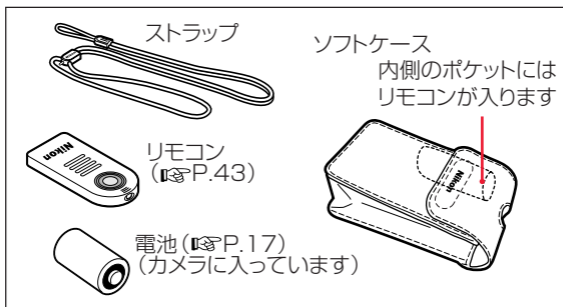
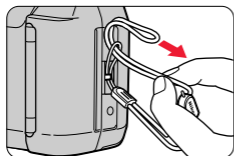
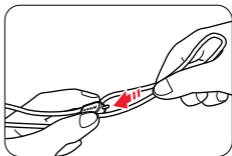
前提条件や制約などの要チェック項目が書いてあります。

注意していただきたいことや守っていただきたいことが書いてあります。

◉ 補足内容が書いてあります。

☞ 参照ページが書いてあります。

このカメラを初めてご使用になるときのご注意

ご購入時には、ファインダー接眼窓を保護するため、ファインダー部に保護カバーが付いています。ご使用になる際は、保護カバーを取りはずしてお使いください。

付属品（お確かめください。）

ストラップの取り付け方

図のようにストラップを通します。

止め具で長さを調節します。

保証書と愛用者カードについて

この製品には保証書とご愛用者カードが付いていますのでご確認ください。

保証書の詳細は、「アフターサービスと保証について」（☞P.49）をご覧ください。

もくじ

安全上のご注意 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 6～9
すぐ撮影するには ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 10
各部の名称 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 12～14
　本体 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 12～13
　表示パネル ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 14
ファインダー内の表示内容 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 15

1 お使いになるまえの準備

電源を入れる ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 16
電池容量を確認する ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 16
電池を交換する ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 17
フィルムを入れる ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 18

2 基本的な撮影

写真に日付や時刻を写し込むには ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 20
視度を調節するには ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 21
カメラを構える ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 22
シャッターボタンを押す ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 23
標準撮影とパノラマ撮影の切り換え方 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 24
ズーミングするには ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 25
撮影する ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 26
フィルムの巻き戻しについて ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 28
フィルムを取り出す ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 29

3 応用撮影

写したいものが画面中央にない構図のときは ＿ 30
ピント合わせが苦手なシーンについて ＿＿＿ 32
近接撮影をするには ＿＿＿ 33
フラッシュを使った撮影 ＿＿＿ 34
　スピードライトモードについて ＿＿＿ 34
　フラッシュを自動で発光させるには ＿＿＿ 36
　フラッシュの発光を禁止させるには ＿＿＿ 37
　フラッシュを強制的に発光させるには ＿＿＿ 38
　夜景をバックに人物を写すには ＿＿＿ 39
　目が赤く写る現象を軽減するには ＿＿＿ 40
風景や窓越しの景色を写すには ＿＿＿ 42
セルフタイマー撮影するには ＿＿＿ 42
リモコン操作で撮影するには ＿＿＿ 43
リモコン電池を交換するには ＿＿＿ 44

4 知っておいてください

日付や時刻を修正するには ＿＿＿ 45
故障かな? と思ったら ＿＿＿ 46
取り扱い上のご注意 ＿＿＿ 48
アフターサービスと保証について ＿＿＿ 49
仕　様 ＿＿＿ 50

安全上のご注意

ご使用のまえに「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意(警告を含む)を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が(左図の場合は感電注意)が描かれています。
	⦸記号は、禁止(してはいけないこと)の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること(必ずすること)を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容(左図の場合は電池を取り出す)が描かれています。

⚠ 警　告（カメラについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに
修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに
修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨に濡らしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

発光禁止

車の運転者等にむけて、スピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

見ないこと

ファインダーより直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

警　告（カメラについて）

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児･児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

注　意（カメラについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

切り換え禁止

ファインダーをのぞいた状態でパノラマ切り換えレバーを操作しないこと

指先やつめで目などを突き、ケガの原因となることがあります。

使用注意

ファインダーをのぞいて視度を調整するときに目を突かないように注意して操作すること

指先やつめで目などを突き、ケガの原因となることがあります。

保管注意

使用しないときは、スライドカバーを閉じて太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

⚠ 警　告（電池について）

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池に表示された警告･注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水につけたり、濡らさないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

■使用説明書について

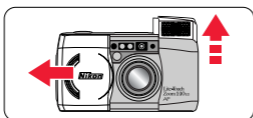
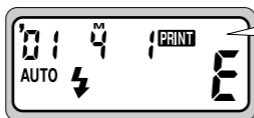
使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、当社サービス機関で新しい使用説明書をお求めください（有料）。

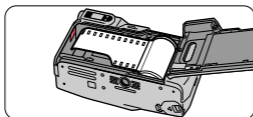
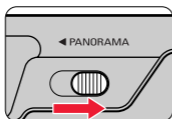
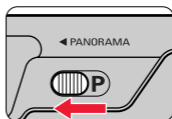
すぐ撮影するには

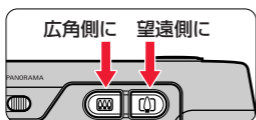
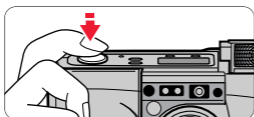
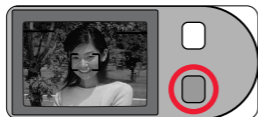
早わかり操作ガイド

とにかく『すぐに撮影してみたい』という方はこのページをご覧ください。

詳細は参照ページでご確認ください。

1. 電源を入れる。（☞P.16）

2. "［電池マーク］"が表示されていないことを確認する。（☞P.16）

点滅時は、
電池容量不足。

3. フィルムを入れる。（☞P.18）

4. 標準撮影またはパノラマ撮影を選ぶ。（☞P.24）

標準撮影時　　　　**パノラマ撮影時**

または

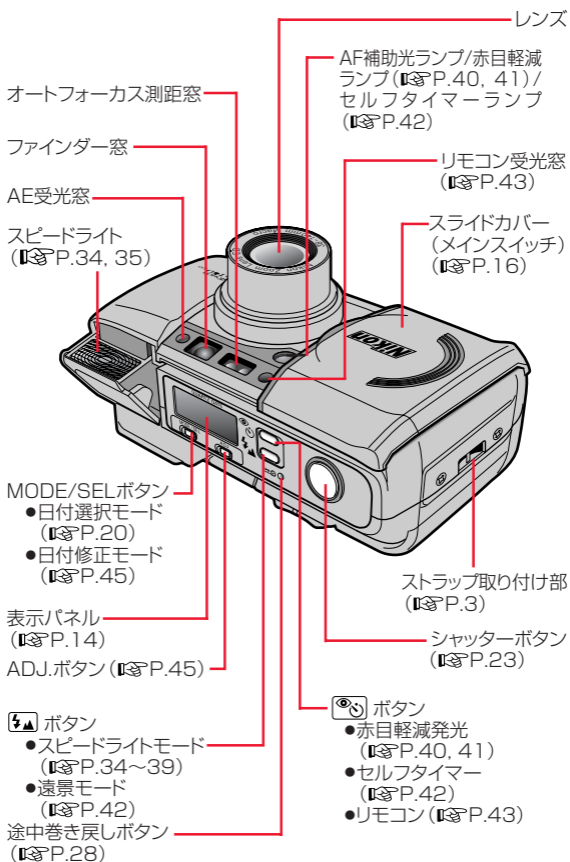
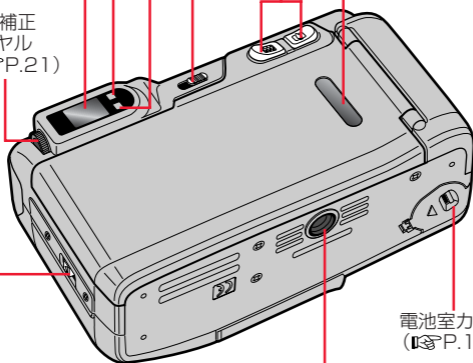
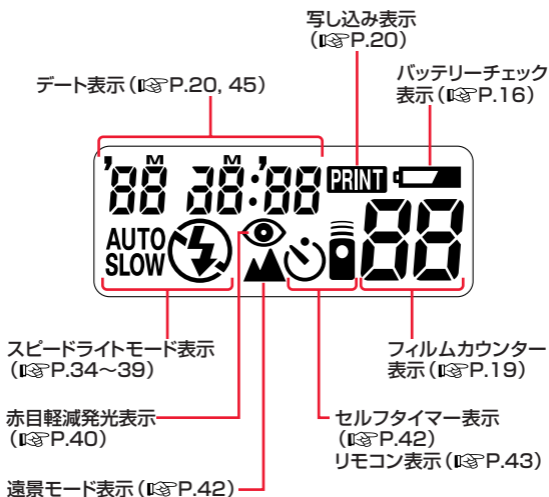
5. ズームボタンを押して構図を決める。
（☞P.25）

6. シャッターボタンを半押しする。（☞P.23）

7. ピント表示を確かめて、撮影する。（☞P.27）

撮影フィルムが終了すると、

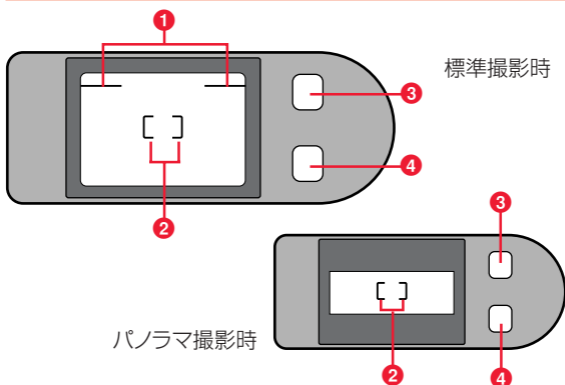
フィルムは自動的に
巻き戻されます。（☞P.28）

フィルムを取り出す。（☞P.29）

大切な撮影のまえには試し撮りを
大切な撮影のまえには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するか確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸経費および利益の喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

各部の名称

レンズ
AF補助光ランプ/赤目軽減ランプ(☞P.40, 41)/セルフタイマーランプ(☞P.42)
オートフォーカス測距窓
ファインダー窓
AE受光窓
スピードライト(☞P.34, 35)
リモコン受光窓(☞P.43)
スライドカバー(メインスイッチ)(☞P.16)
MODE/SELボタン
●日付選択モード(☞P.20)
●日付修正モード(☞P.45)
表示パネル(☞P.14)
ADJ.ボタン(☞P.45)
ストラップ取り付け部(☞P.3)
シャッターボタン(☞P.23)
ボタン
●赤目軽減発光(☞P.40, 41)
●セルフタイマー(☞P.42)
●リモコン(☞P.43)
ボタン
●スピードライトモード(☞P.34〜39)
●遠景モード(☞P.42)
途中巻き戻しボタン(☞P.28)
QUARTZ DATE
MODE/SEL
ADJ
Nikon

緑ランプ
（☞P.15, 27）
オレンジランプ
（☞P.15, 35）
ファインダー接眼窓
（☞P.15）
視度補正ダイヤル
（☞P.21）
パノラマ切り換えレバー（☞P.24）
ズームボタン（☞P.25）
フィルム確認窓
電池室カバー
（☞P.17）
裏ぶた開放レバー（☞P.18）
三脚ネジ穴
（☞P.37, 39, 42, 43）

表示パネル

※ 図は説明のために全ての表示を点灯させたものです。

ファインダー内の表示内容

❶近距離補正マーク（☞P.33）

撮影距離が1mより近い撮影のときに使用します。

❷オートフォーカスフレーム（☞P.26）

ピントを合わせたいものをこのフレームに重ねてピントを合わせてください。

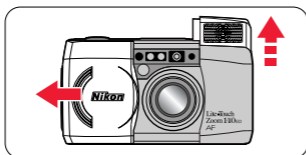
❸オレンジランプ（☞P.35）

フラッシュが充電中はゆっくり点滅し、充電が完了すると点灯します。また、上にあがったスピードライト部を押すと早く点滅して警告します。

❹緑ランプ（☞P.27）

ピントが合うと点灯し、ピントが合わないときは早く点滅します。また近接撮影時に、被写体までの距離が約0.74mより近い場合は、ゆっくり点滅して警告します。

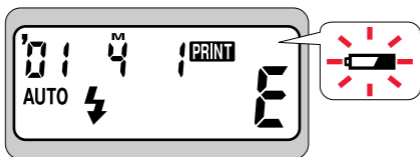
電源を入れる

スライドカバーを開ける。

◉ スライドカバーを矢印の方向に開けると電源が入り、内蔵スピードライトが自動的にあがり、レンズが繰り出します。

スライドカバーはカチッと音がするまで引いてください。

スライドカバーを閉じるときは、はじめにカバーを少しスライドさせてレンズが収納されてから、ゆっくり閉じてください。

電池容量を確認する

“ ”が表示されていないことを確認する。

◉ 表示パネルに“ ”が表示されていなければ、電池容量は充分です。

◉ 表示パネルに“ ”が点滅しているときや表示パネルの全ての表示が消えているときは、電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。

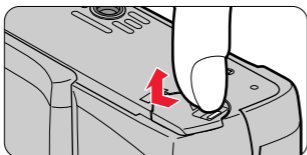
撮影のまえには、必ず電池容量を確認してください。

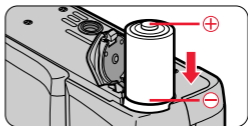
撮影の際は、新しい予備の電池をご用意ください。特に、海外の地域によっては、電池の入手が困難な場合があります。

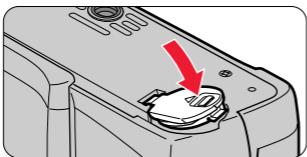
電池を交換する

使用する電池

このカメラには、3Vリチウム電池CR123A、またはDL123Aを1個使用します。

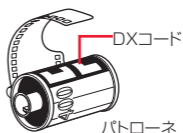
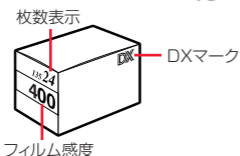
1. 電池室カバーを開ける。

◉ 電池室カバーのロックを矢印の方向に押しながら、電池室カバーを開けます。

2. 電池を交換する。

◉ 電池の⊕／⊖表示を図のような向きで入れます。

3. 電池室カバーを閉じる。

◉ 電池室カバーをカチッと音がするまでしっかり押してください。

電池を取り出すと、カメラの時計がリセットされますので、日付や時刻を合わせてください。（☞P.45）

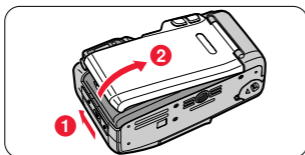
フィルムを入れる

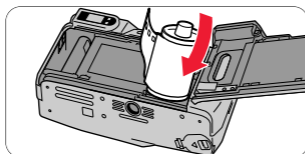
35mmDXマーク付フィルムの豆知識

- このカメラには、35mm DXマーク付フィルムをご使用ください。
- DXマーク付フィルムを使用すると、フィルム感度はカメラが自動的にセットします。
- 自動セットが可能なフィルム感度はISO 50、100、200、400、800、1600、3200です。
- DXマーク付以外のフィルムを使用した場合、フィルムの感度は自動的にISO 100にセットされます。

フィルムをカメラに入れるときは、直射日光の当たらない所で行ってください。

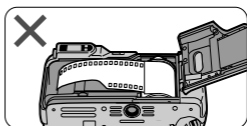
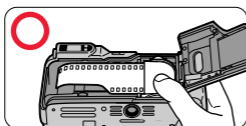
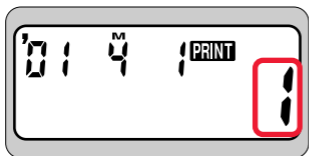
ご使用になるフィルムについて

フィルムの感度は、手ブレ防止やフラッシュ撮影に有利な ISO 400をおすすめします。

1. 裏ぶたを開ける。

- 裏ぶた開放レバーをスライドさせて(❶)、裏ぶたを開けます(❷)。

2. フィルムを入れる。

3. フィルムの先端を赤色のフィルム位置マークに合わせる。

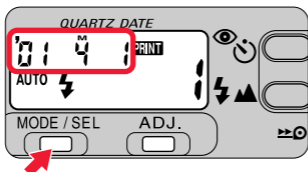
◉ フィルムをフィルム位置マークより奥に入れた場合や、フィルムの先端が折れている場合、フィルムが正しく送られないことがあります。

フィルムが浮かないようにパトローネを指で軽く押さえてください。

4. 裏ぶたを閉じて、フィルムが正しく送られているか確かめる。

◉ 裏ぶたを閉じると、フィルムは自動的に送られ、この間表示パネルのフィルムカウンターに“- -”が点滅します。

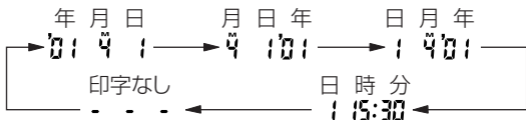
◉ フィルムが正しく送られると、フィルムカウンターに“1”が点灯表示されます。

フィルムカウンターに“E”が点滅しているときは、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開けフィルムを取り出して、入れ直してください。

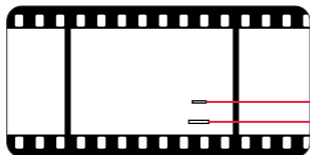
写真に日付や時刻を写し込むには

MODE/SELボタンを押して日付表示を選ぶ。

年は西暦の下2桁で、時分は24時間制で表示されます。イラストの例は“2001年4月1日”を表します。

◉ Mは月を表しますが、写真には写し込まれません。

◉ MODE/SELボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

◉ “PRINT” が表示されている状態で撮影すると、そのとき表示されている日付や時刻が写し込まれます。

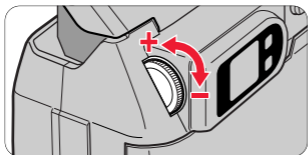
◉ 日付を写し込まないときは、“ - - - ”（印字なし）にしてください。

デートの写し込み位置について

◉ フィルム上でのデートの写し込み位置は上図を目安にしてください。

写し込み位置と被写体が次のような場合は、写し込みデートが判別しにくくなることがあります。
●白いまたは明るい場合。
●オレンジや黄色の場合。

フィルムの規定枚数を超えて撮影したコマには、正しく写し込まれない場合があります。

視度を調節するには

視度補正ダイヤルを回して調節する。

◉ ファインダーがはっきり見えないときには、視度補正ダイヤルを回して調節してください。

注意	使用注意	ファインダーをのぞいて視度を調節するときに、目を突かないように注意して操作すること 指先やつめで目などを突き、ケガの原因となります。

アンティフォグファインダーについて

このカメラは、息を吹きかけた場合や発汗による水蒸気などでも曇らないよう、特殊加工を施したアンティフォグファインダーを採用しています。

 アンティフォグファインダーが汚れた場合は、メガネ拭き等の乾いたやわらかい布で軽く拭き取ってください。強く拭くと傷がつくことがありますのでご注意ください。

カメラを構える

カメラをしっかり構えます。

〈横位置の構え方〉

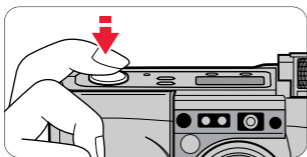
◉ わきをしめ、ひじを体につけて、両腕でしっかり構えます。

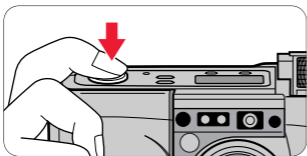
〈縦位置の構え方〉

◉ 縦位置で撮影する場合は、スピードライトが上になるように構えます。

- 手や髪の毛、ストラップなどで、レンズやオートフォーカス測距窓、スピードライトなどをおおわないように注意してください。
- 上にあがったスピードライト部を押し込まないように注意してください。

シャッターボタンを押す

1. シャッターボタンを軽く押して途中で止める（この操作を“半押し”と呼びます）。

- “半押し”すると、ピントと露出が決まり緑ランプが点灯します。
- “半押し”中は、ピントが固定（フォーカスロック☞P.30）されます。

2. “半押し”したまま、さらにシャッターボタンを押し込むとシャッターがきれます。

- 被写体が暗い場合や逆光時は、フラッシュが自動的に発光します。

一気にシャッターボタンを押すと手ブレの原因になります。シャッターボタンはゆっくりと押し込んでください。

標準撮影とパノラマ撮影の切り換え方

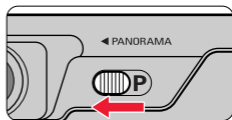
パノラマ撮影とは

35mmフィルムの標準撮影画面1コマ分の上下を遮光して約13×36mmの画像を写し込み、プリント時に約89×254mm（パノラマサイズ）に引き伸ばしたものです。

標準撮影、またはパノラマ撮影を選ぶ。

標準撮影時

パノラマ切り換えレバーを右側にセットします。

パノラマ撮影時

パノラマ切り換えレバーを左側にセットします。

標準撮影時

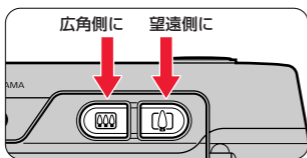
パノラマ撮影時

◉ パノラマ撮影時でも日付や時刻を写し込むことができます。（☞P.20）

パノラマ撮影したときは、通常の同時プリントに比べ、料金や仕上がり時間がかかることがあります。

注意	切り換え禁止	ファインダーをのぞいた状態でパノラマ切り換えレバーを操作しないこと 指先やつめで目などを突き、ケガの原因となります。

ズーミングするには

ズームボタンを押して被写体の大きさを決める。

- 〔望遠マーク〕側を押すと、望遠（140mm）側になり、〔広角マーク〕側を押すと、広角（38mm）側になります。
- 好みの大きさになったらズームボタンから指を離します。

カメラを操作しない状態が約2分間続くと、レンズが自動的に〔広角マーク〕（広角）側に戻ります。

〔望遠マーク〕望遠側の作例

〔広角マーク〕広角側の作例

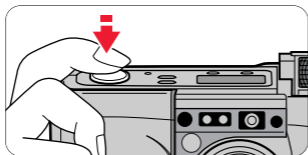
撮影する

このカメラは高精度ワイドエリアパッシブ方式オートフォーカスを採用していますので、ピントが合わせやすく遠景やガラス越しの被写体もシャープに写せます。

1. ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを重ねる。

写したいものがオートフォーカスフレームから外れているときは

ピントを合わせたいものがオートフォーカスフレームから外れる構図のときは、フォーカスロックによるピント合わせをしてください。
（☞P.30）

2. シャッターボタンを半押しする。

緑ランプの点灯と点滅について

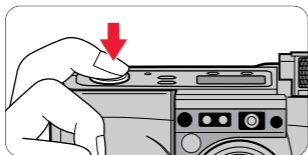
ピントが合うと緑ランプが点灯し、ピントが合わないときはゆっくりまたは早く点滅します。

●緑ランプが**ゆっくり**点滅する

……… 被写体に近づきすぎです。約0.74m以上離れてください。

●緑ランプが**早く**点滅する

……… ピントが合いません。フォーカスロック撮影（☞P.30）の方法でピント合わせをしてください。

3. シャッターボタンをゆっくり押し込む。

⦿ スピードライト自動発光モードにセットされているときに、写したいものが暗いときや逆光時には、フラッシュが自動的に発光します。

一気にシャッターボタンを押すと手ブレの原因になります。

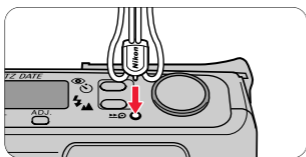
撮影しないときは、スライドカバーを閉じて、電池の消耗を防いでください。

フィルムの巻き戻しについて

フィルムの巻き戻しは自動です。

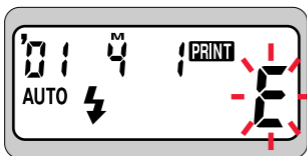
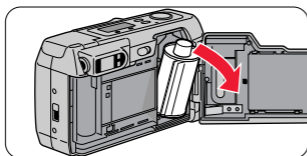
◉ フィルムを撮り終わると、自動的に巻き戻しが始まります。
◉ 巻き戻し中は、フィルムカウンターの数値が1枚ずつ減り、巻き戻しが完了すると“E”が約20秒間点滅した後、点灯します。
◉ 電池容量不足のために巻き戻しが途中で止まったときは、電池を交換すると、巻き戻しが自動的に再開されます。

“E”が点滅するまでは、裏ぶたを開けないでください。

フィルムを途中で巻き戻すには

途中巻き戻しボタン（▶▶⊙）をストラップの止め具の突起やボールペンの先端などで押します。

◉ 巻き戻しが始まればボタンを押し続ける必要はありません。

フィルムを取り出す

1. 巻き戻し完了の“E”の点滅、または点灯を確かめる。

2. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出す。

写したいものが画面中央にない構図のときは

フォーカスロック撮影

ピントを合わせたいものが、画面中央のオートフォーカスフレームから外れる位置のときは、ピントを固定したまま構図を自由に変えられるフォーカスロックが便利です。

1. 構図を決める。

◉ 作例のような構図のまま撮影すると、被写体がオートフォーカスフレーム“[　]”から外れるため、ピントは背景に合って被写体はピンボケになってしまいます。このような場合にフォーカスロックを利用すると、撮りたい部分のピントを一時的に固定したまま構図を変えて撮影することができます。

2. ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを重ねて半押しする。

◉ ピントが合うと緑ランプが点灯し、シャッターボタンを半押ししている間、ピントはそこで固定されます。

撮影距離を変えない

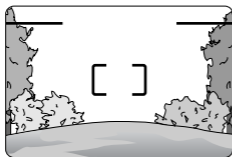
緑ランプが点灯している間は、ピントが固定されていますので、撮影距離を変えないでください。

3. シャッターボタンを半押ししたまま、構図を戻して撮影する。

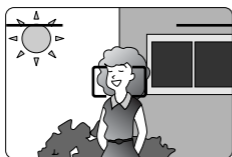
作例

ピント合わせが苦手なシーンについて

次のような被写体にはピントが合わせにくい場合があります。フォーカスロック（☞P.30）を利用して、同じ距離にあるものでピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。

■ **青空など、明暗差がはっきりしない被写体、または光っている車のボディや水面など光沢のある被写体**

■ **連続した繰り返しパターンのビルなどの被写体**

■ **フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体**

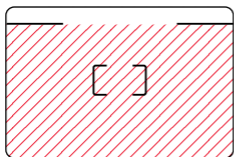
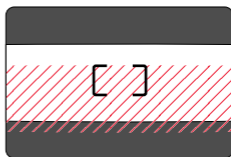
■ **太陽などの強い光を背景にした被写体**

近接撮影をするには

最短撮影距離は約0.74m

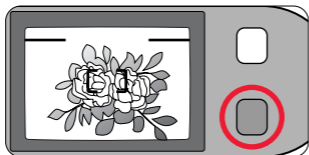
花などをできるだけ画面一杯に大きく写したいときに、写したいものに最短で約0.74mまで近づいて撮れます。

◉ ズームボタンを望遠側にするとより大きく写せます。

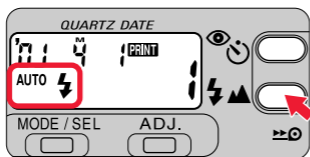
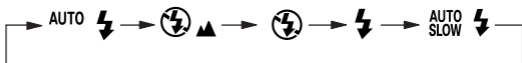
1. 近距離補正マークの枠内で構図を決める。

標準

パノラマ

- 図の▨の部分が写ります。
- 撮影距離が1mより近い撮影のときに使用します。

2. 緑ランプの点灯を確認してから撮影する。

- 撮影距離が約0.74mより近づくと、緑ランプがゆっくり点滅して警告します。緑ランプが点灯する距離まで離れて撮影してください。

フラッシュを使った撮影

スピードライトモードついて

◉ ボタンを押すごとに、5つのモードの中から、好みのモードを選ぶことができます。

AUTO ：**スピードライト自動発光（☞P.36）**
被写体が暗いときや逆光のときにフラッシュが自動的に発光します。

：**遠景撮影（☞P.42）**
遠くの景色をよりシャープに写したいときは、ここにセットすると効果的です。

：**スピードライトキャンセル（☞P.37）**
フラッシュを発光させたくないときは、ここにセットすると発光しなくなります。

：**スピードライト強制発光（☞P.38）**
フラッシュを必ず発光させたいときは、ここにセットすると発光します。

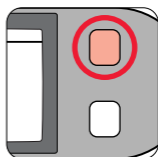
AUTO SLOW ：**スローシンクロ（☞P.39）**
夕暮れや夜景などをバックに、人物をより自然に写したいときは、ここにセットすると効果的です。

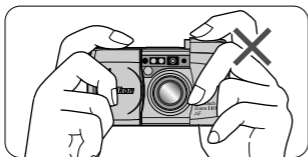
オレンジランプの点灯と点滅について

●オレンジランプが点灯したら

……… フラッシュの充電が完了です。
いつでもフラッシュ撮影ができます。

●オレンジランプが**ゆっくり**点滅するとき

……… フラッシュが充電中です。オレンジランプが点灯するまでシャッターは切れません。いったんシャッターボタンから指を離し、再度半押しして、オレンジランプの点灯を確認してから撮影してください。

●オレンジランプが**早く**点滅するとき

……… 上にあがったスピードライト部を手などで押しています。このとき、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

フラッシュ撮影時の撮影距離について

フラッシュ使用時の撮影距離は下記を目安にしてください。

ISO 100フィルム使用時

(広角)のとき:約0.74～4.4m
(望遠)のとき:約0.74～2.5m

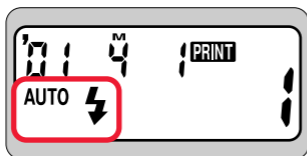
ISO 400フィルム使用時

(広角)のとき:約0.74～8.8m
(望遠)のとき:約0.74～5.0m

フラッシュを自動で発光させるには

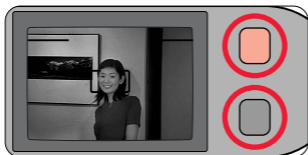
スピードライト自動発光撮影

被写体が暗い場合や逆光時は、フラッシュが自動的に発光します。

1. スライドカバーを開ける。

◉ スライドカバーを開けると、電源が入り、内蔵スピードライトが自動的に上にあがり、表示パネルに "AUTO ⚡" が表示され、スピードライト自動発光モードにセットされます。

自動逆光補正機能について

逆光時にはフラッシュが自動的に発光して、主要被写体と背景の露出を調整し、バランスの良い写真が撮影できます。

2. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

- 被写体が明るい場合は、半押しすると表示パネルに "AUTO⚡" が点灯し、フラッシュは発光しません。
- 半押しでオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。再度半押しし直して、オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 上にあがったスピードライト部を押し下げると、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

フラッシュの発光を禁止させるには

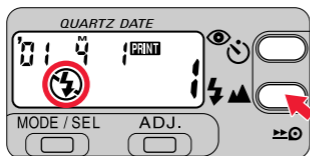
スピードライトキャンセル撮影

美術館などフラッシュ撮影が禁止されているときや、夕景･夜景の雰囲気を生かしたいときに効果的です。

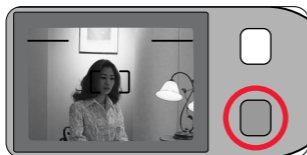
1. カメラを三脚などに固定する。

三脚の使用について

この撮影では、シャッタースピードが遅くなり、手ブレをおこしやすいため、三脚等をご使用になり、カメラを固定してください。

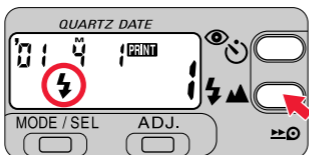
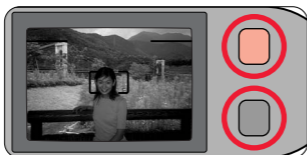
2. [⚡▲]ボタンを押して“⊘”を表示させる。

3. 緑ランプの点灯を確認して撮影する。

作例

応用撮影

フラッシュを強制的に発光させるには

スピードライト強制発光撮影

意図的にフラッシュを発光させたいときに便利です。

1. ボタンを押して、“ϟ”を表示させる。

2. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

作例

- 半押しでオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。再度半押しし直して、オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 上にあがったスピードライト部を押し下げると、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

夜景をバックに人物を写すには

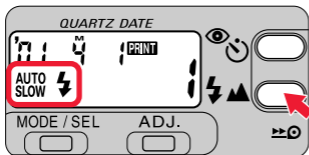
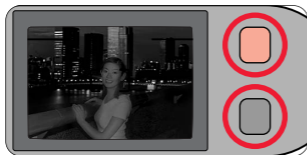
スローシンクロ撮影

夜景や夕暮れをバックにしている人物を撮るときに、人物も背景も自然な感じに写せます。

1. カメラを三脚などに固定する。

三脚の使用について

この撮影では、シャッタースピードが遅くなり、手ブレをおこしやすいため、三脚等をご使用になり、カメラを固定してください。

2. [フラッシュボタン]ボタンを押して、“AUTO SLOW ⚡”を表示させる。

3. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

作例

◉ フラッシュを必要としない明るさでは、半押しすると“AUTO SLOW⚡”が点灯してフラッシュは発光しません。

- 半押しでオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。再度半押しし直して、オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 上にあがったスピードライト部を押し下げると、フラッシュは発光しません。スピードライト部に触れないようにしてください。

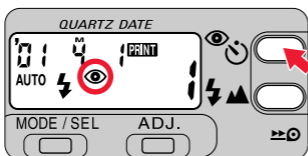
目が赤く写る現象を軽減するには

赤目軽減発光撮影

フラッシュの光で、目が赤く写るのを軽減したいときに効果的です。

カメラや被写体が動かないように

フラッシュが発光するまえに、赤目軽減ランプを約1秒間照射しますので、フラッシュが発光するまでカメラや被写体が動いたりしないように注意してください。

1. ボタンを押して、“ ” を表示させる。

◉ ボタンを押すごとに、表示が切り換わります。

表示なし :**赤目軽減発光解除**

赤目軽減発光を解除したいときは、ここにセットします。

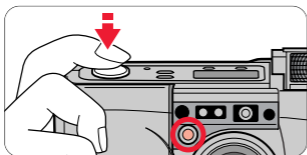
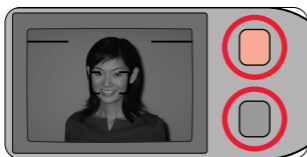
:**赤目軽減発光**

人物の目が赤く写るのを軽減したいときは、ここにセットします。

:**セルフタイマー（☞P.42）/リモコン（☞ P.43）**

セルフタイマー撮影、またはリモコン撮影をする場合は、ここにセットします。

このモードでフラッシュを発光する撮影のときは、赤目軽減発光になります。

2. 構図を決め、シャッターボタンを半押しする。

3. オレンジと緑ランプの点灯を確認して撮影する。

- 半押しでオレンジランプが点滅しているときは、フラッシュが充電中のためシャッターがきれません。再度半押しし直して、オレンジランプが点灯してからシャッターをきってください。
- 赤目軽減発光は、電源をOFFにしても自動的に解除されませんので、赤目軽減発光を必要としないときは、[赤目/セルフ]ボタンを押して“[赤目]”を消灯させて、赤目軽減発光を解除してください。

赤目軽減発光撮影について

赤目軽減発光撮影は、シャッターボタンを押し込んだ後、約1秒間赤目軽減ランプを照射してからシャッターがきれるため、シャッターチャンスを優先させる撮影にはおすすめできません。

風景や窓越しの景色を写すには（遠景撮影）

遠くの風景や、窓越しの景色を写すときに便利です。

1. ボタンを押して、“ ” を表示させる。

2. 緑ランプの点灯を確認して撮影する。

遠景モードでは、フラッシュは発光しません。

セルフタイマー撮影するには

記念撮影など、撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。

1. ボタンを押して、“ ” を表示させる。

◉ セルフタイマー撮影するときは、カメラを三脚などに固定してください。

2. 構図を決め、シャッターボタンを押し込む。

◉ セルフタイマー撮影では、シャッターボタン半押し時のピントと露出で撮影されます。

◉ シャッターボタンを押し込むと、セルフタイマーランプが約8秒点滅し、その後約2秒間点灯してシャッターがきれます。

◉ シャッターがきれると、セルフタイマーモードは解除されます。

撮影しないまま約2分間経過したときや、スライドカバーを閉じると、セルフタイマーモードは自動的に解除されます。

リモコン操作で撮影するには

カメラから離れた場所で、シャッターをきりたいときに便利です。

リモコンを初めてお使いになるときは、リモコンに、はさんである透明の絶縁シートを引き抜いてからご使用ください。

1. ボタンを押して、"" を表示させる。

◉ リモコン撮影するときは、カメラを三脚などに固定してください。

リモコン撮影可能範囲は、カメラ正面で約5m以内です。それ以上の距離で撮影するときはセルフタイマーをお使いください。

撮影しないまま、約2分間経過したり、スライドカバーを閉じるとリモコンモードが自動的に解除されます。

2. 構図を決め、リモコンをカメラに向けて、送信ボタンを押す。

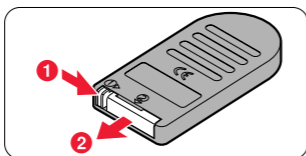
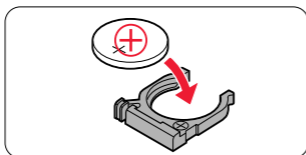
◉ 送信ボタンを押すと、セルフタイマーランプが約2秒間点灯した後、シャッターがきれます。

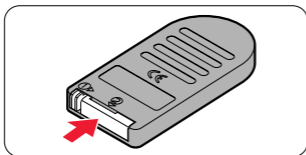
◉ リモコン撮影後2分以内であれば、続けてリモコン撮影できます。

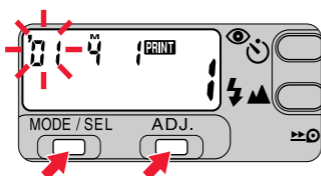
極端な逆光状態では、リモコン撮影できない場合があります。

リモコンの電池の寿命は約5年間です。送信ボタンを押してもシャッターがきれない場合は、電池を交換してください。(☞P.44)

リモコン電池を交換するには

1. 電池ホルダー着脱レバーを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除しながら❶、リモコン本体から電池ホルダーを取り出す❷。

2. 新しい電池と交換する。

- 電池は、3Vリチウム電池（CR2025タイプ）を1個使用します。
- ⊕極を上にして電池ホルダーに入れます。

3. 電池ホルダーをリモコン本体にカチリと音がするまで押し込む。

警告	保管注意	電池は幼児の手の届かない所に置くこと 万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

日付や時刻を修正するには

1. MODE/SELボタンを2秒以上押し続ける。

◉ 日付表示が[年 月 日]、[月 日 年]、[日 月 年]のときは左端の桁から点滅します。ただし、[日 時 分]のときは中央の桁から点滅します。

◉ 電源がONのときでも、OFFのときでも修正できます。電源がONの場合は修正途中に、スライドカバーを閉めたり、途中巻き戻しボタンやズームボタンなどを押すと、その時の状態で設定されます。

2. ADJ.ボタンを押して、点滅している数値を合わせる。

◉ ADJ.ボタンを押すごとに、数字が1つずつ増えます。

◉ ADJ.ボタンを2秒以上押し続けると、数字の早送りができます。

3. 点滅している数値を合わせたら、再びMODE/SELボタンを押して、となりの桁の数値を点滅させる。

◉ 上の手順2、3の動作を繰り返して、年月日または日時分すべてを修正したら、最後にMODE/SELボタンを押し、年月日または日時分すべてが点灯すれば、修正は終了です。

電池を交換したときは

- 電池を交換すると表示パネルには“00 0 00”が表示されます。
- “00 0 00”のまま撮影すると、日付や時刻は写し込まれません。1～3の手順に従って日付や時刻を合わせてください。

故障かな？と思ったら

次のような場合、アフターサービスを依頼されるまえにご確認ください。確認されても正常に作動しないときは、最寄りの当社サービス機関にご相談ください。

こんなときは		確認事項 → 解決方法	参照頁
シャッター	シャッターがきれない	● スライドカバーが全開していない。 → スライドカバーをカチッというまで開けて電源を入れてください。	16
		● オレンジランプが点滅。 → スピードライトが充電中です。いったんシャッターボタンから指を離して、再度半押しし直し、オレンジランプが点灯してから撮影してください。	15, 35
		● 表示パネルに“E”が点灯。 → 撮影済みのフィルムが入っています。新しいフィルムと交換してください。	18, 19 28, 29
		● 表示パネルに何も表示されない。 → 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。*	17
		● 表示パネルの全ての表示が点滅。 → カメラが異常を検出しています。スライドカバーを閉じた後、再度スライドカバーを開け、電源を入れてください。それでも正常に戻らない場合は、電池を一度抜き、表示が消えるのを確認してから、入れ直してください。*	16, 17
スピードライト	フラッシュが発光しない	● オレンジランプが点滅。 → スピードライトが充電中です。いったんシャッターボタンから指を離して、再度半押しし直し、オレンジランプが点灯してから撮影してください。	15, 35
		● 表示パネルに“(発光禁止マーク)”が表示。 → 被写体が明るいと発光しません。フラッシュが必要な場合は、強制発光モードにセットしてください。	36, 38
		● 表示パネルに何も表示されていない。または“(電池マーク)”が点滅。 → 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。*	17
		● オレンジランプが早く点滅。 → スピードライト部を押さえています。スピードライト部に触れないようにしてください。	15, 35

こんなときは		確認事項 → 解決方法	参照頁
ピント	ピントが合っていない	● 手ブレしている。 → シャッターボタンをゆっくり押すか、カメラを三脚などに固定してください。 ● 被写体の手前や奥にピントが合っている。 → オートフォーカスフレームに被写体を合わせてシャッターをきってください。ピントが合いにくい場合はフォーカスロック撮影を行うとより確実です。	22, 23 37, 39 26, 30 31
表示パネル	電源を入れても何も表示されない	● 電池の⊕／⊖ の向きを確かめる。 → ⊕／⊖の向きを正しく入れてください。* ● 電池容量を確かめる。 → 電池が入っていれば、電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。*	17 16, 17
	フィルムを入れたのに“1”が表示されない。	● “E”が点滅、または点灯。 → フィルムをもう一度入れ直してください。	18, 19
リモコン	リモコン操作でシャッターがきれない	● リモコン操作距離が遠すぎる。 → カメラ正面から約5m以内で操作してください。 ● リモコン設定後、2分以上経過している。 → もう一度、リモコンモードにセットしてください。 ● 逆光状態で操作している。 → リモコン操作の位置を変えてください。 ● リモコンの電池の使用期限（約5年）を過ぎている。 → 電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。	43 43 43 44

* 電池を交換したり、入れ直したときは、日付·時刻がリセットされますので合わせ直してください。（☞P.45）

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、外部から強力な静電気などが侵入したことでカメラが作動しなくなることがあります。万一このような状態になったときは、電池を一度抜いて入れ直してください。また、電池を抜くと、日付·時刻がリセットされますので、電池を入れ直した後には、日付·時刻を合わせ直してください。（☞P.45）

取り扱い上のご注意

カメラをご使用にならないときは

スライドカバーを閉じて、電源を切ってください。シャッターボタンが不用意に押されて、電池が消耗するのを防ぎます。

カメラを長期間ご使用にならないときは

カメラから電池を取り出して、高温、多湿となる場所を避けて保管してください。なお、スピードライトのコンデンサーの劣化を防ぐため、月に1度を目安に、電池を入れてフラッシュを数回発光させてください。

カメラを濡らさない

ニコン Lite Touch Zoom140ED QDは防水構造ではありません。水しぶきなどがかからない場所でご使用ください。

カメラに強いショックを与えない

カメラは精密機械です。落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。

カメラを保管する際は

閉めきった車の中やトランクの中、ストーブの前などの高温多湿となる所や、防虫剤の近くを避けて、乾燥剤と一緒に保管してください。

お手入れについて

ホコリや汚れは、乾いた柔らかい布・市販のブロワーブラシやレンズクリーナーなどで取り除いてください。
アンティフォグファインダーアイピース部の汚れは、メガネ拭き等の乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。

フラッシュは休ませながら使用する

フラッシュの連続発光を繰り返しますと、カメラや電池の温度が上昇しますので、休ませながらご使用ください。

付属の電池について

付属の電池は、購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。ご使用のまえに容量を確認してください。(☞P.16)

低温時にカメラをご使用になるときは

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しない場合がありますので、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互にご使用ください。なお、一時的に性能が低下した電池でも、常温に戻れば性能を回復する場合があります。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問は、ニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、この使用説明書の裏表紙をご覧ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。ご転居、ご贈答品などの理由で、ご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
当社サービス機関につきましては、この使用説明書の裏表紙をご覧ください。

■補修用性能部品について

ニコンLite Touch Zoom140ED QDの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年間を目安としております。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関にお問い合わせください。
- 水没、火災、落下などによる故障または破損で、全損と認められた場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

■製品の保証について

（1）この製品には「保証書」が付いていますので、ご確認ください。
（2）「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様にお渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」がすべて記入された「保証書」をお受け取りになり、内容をお読みの上、大切に保管してください。
（3）保証規定による保証修理は、ご購入から1年間となっております。「保証書」をお受け取りになりませんと上述の保証修理が受けられないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。
（4）海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します。（領収書がない場合は有料となる場合があります）
（5）保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりは、お客様にご負担願います。
（6）保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスにご不明なことがありましたら、ご購入店、または当社サービス機関にお問い合わせください。

仕様

型　式
ズームレンズ内蔵オートフォーカス35mmAEレンズシャッターカメラ

使用フィルム
パトローネ入り35mmDXフィルム(画面サイズ:標準撮影時:24×36mm／パノラマ撮影時:13.3×36mm)

レンズ
ニコンズームレンズ38mm f/5.3〜140mm f/10.5、8群10枚(EDレンズ、非球面レンズ使用)

シャッター
プログラムAE式電子シャッター(絞り羽根兼用)、シャッタースピード:2〜1／500秒

ファインダー
実像式ズームファインダー、視野率:約80%以上(標準撮影時)、倍率:約0.44倍(38mm時)／約1.29倍(140mm時)、視度調整機能付き($-1.5m^{-1}$〜$+1.5m^{-1}$)、アンティフォグファインダー(接眼部)

ファインダー内表示
撮影範囲フレーム(近距離補正マーク付)、パノラマ撮影範囲フレーム、オートフォーカスフレーム、緑ランプ:測距完了表示(点灯)／近距離警告(点滅2Hz)／測距不能警告(点滅8Hz)、オレンジランプ:スピードライト発光予告(点灯)／未充電警告(点滅4Hz)、スピードライト部押し込みによる警告(8Hz)

距離合わせ
ワイドエリアパッシブ方式、撮影距離:約0.74m〜∞

フォーカスロック
シャッターボタン半押しによるフォーカスロック付き

露出制御
電子制御プログラムAE、AE連動範囲(ISO100):EV4〜16(38mm時)／EV6〜16(140mm時)、(ISO400):EV6〜17(38mm時)／EV6〜18(140mm時)、スピードライト自動発光

使用可能フィルム感度
ISO 50、100、200、400、800、1600、3200はDXコードによる自動セット

フィルム装てん
イージーローディング空送り機構、フィルム確認窓付

フィルムカウンター
液晶によるデジタル表示、順算式、巻き戻し時は逆算連動

セルフタイマー
電子制御式、シャッターボタンによるスタート、ボディ正面に作動表示(作動時間:10秒、8秒点滅／2秒点灯の2段階)、途中解除可能

フィルム巻き上げ機能
内蔵モータによる電動式(スプールドライブ方式)、自動空送り、自動巻き上げ(1コマ)、フィルム終端検出による自動巻き戻し、途中巻き戻し可

リモートコントロール機能
専用赤外光を利用、送信ボタンによるスタート、2秒後にシャッター作動、到達距離:カメラ正面で約5m、ボディ正面に作動表示、3Vリチウム電池(CR2025タイプ)1個使用、送信機電池寿命:約5年、大きさ:約60×28×7mm(幅×高さ×厚み)、質量(重さ):約10g(電池含む)

スピードライト
自動発光、発光禁止、強制発光、スローシンクロの4モード切り換え可能、自動発光設定時低輝度時・逆光時は自動発光、未充電時シャッターボタンロック付、スピードライト連動範囲:(ISO100の場合)約0.74〜4.4m(38mm時)/約0.74〜2.5m(140mm時)、(ISO400の場合)約0.74〜8.8m(38mm時)/約0.74〜5.0m(140mm時)、充電時間:約6秒

赤目軽減モード
設定時スピードライトの発光前にランププリ照射(約1秒間点灯)

撮影可能本数
24枚撮りフィルム約10本(50%スピードライト撮影時)

表示パネル
電源スイッチON時:フィルムカウンター表示、スピードライトモード表示、赤目軽減表示、セルフタイマー/リモコン表示、遠景モード表示、バッテリーチェック表示、写し込み表示、デート表示

使用電源
3Vリチウム電池(CR123A、またはDL123A)×1個

デート写し込み機構
ボディ側の7ドットLEDによる写し込み方式、パノラマ切り換え可能、フィルム感度:DXコードにより自動切り換え式(ISO 50〜3200)

デートの種類
24時間制、[年・月・日]、[月・日・年]、[日・月・年]、[日・時・分]、[写し込みなし](切り換えは押しボタン式、2040年まで月末、うるう年自動調整、データ早送り修正可能)、電源:ボディの電源を使用、時計精度:月差±90秒以内

大きさ(幅×高さ×奥行き)
約114×62.5×43mm

質　量(重さ)
約225g(電池別)

- データはすべて、20℃、新品電池使用時のものです。
- 製品の外観、仕様は改善のため予告なく変更することがあります。

Nikon

■使い方に関するお問い合わせのご案内

ニコンフィルムカメラ、交換レンズ、アクセサリーの使い方に関するお問い合わせをお受けしております。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

140-0015　東京都品川区西大井 1-4-25

（コア・スターレ西大井第一ビル 2 階）

市内通話料でOK ナビダイヤル®

0570-02-8000

市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30 ～ 18:00（土・日曜日・祝日を除く毎日）

・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。

FAX でのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

株式会社 ニコン

Y2F04 (10)